

高安詰所だより

第15号

立教186年

3月20日



「春爛漫」

年祭活動に期を合わせたかのように、季節も動き出し、待ちかねた春が訪れました。日ごとに温かくなって身も心も軽やかとなり、詰所にも人の出入りが増え始め、徐々に以前の賑わいに戻りつつあります。

あれもやろう、これもやろうと、冬の間思い溜めていたことも、いざ始めてみると中々思うようには参りません。そこは慌てず焦らず、腰を据えて一歩一歩、着実に進んでいきましょう。千日の道も一歩からです。

来月十八日は「教祖御誕生祭」。お姿こそ拝せませんが、ご存命でお働き下さる教祖のお誕生日には、海外からも大勢の教友が帰って来られます。旬の勢いをお借りし、身近な方々にも思い切ってお声を掛けて頂き、桜花咲く「春爛漫のおちば」にお連れ下さい。教祖は子どもの帰りを、何より楽しみにお待ちしております。

玄関先のチューリップも お迎え準備



四月 婦人会 別席強調月間

「二委員部から一名以上の別席者を

ご守護いただきましょう」

詰所行事予定（四月）

八日 にをいがけ実動

十三日 おつとめ勉強会

十五日 勤務者修練Ⅰ

十六日 大教会月次祭参拝

十七日 直轄祭参拝（大教会）

十八日 本部教祖誕生祭参拝

二十日 勤務者修練Ⅱ

二十六日 本部月次祭参拝者受入れ

六月 大教会 別席強調月間

「年祭活動に励み、

三年間で千四百名の別席者のご守護を」



詰所の動き

学生生徒修養科（大学の部・高校修了コース）

春は若者。「学生生徒修養科」も数年ぶりに人数制限無しでの募集で、おちばは大勢の学生さんで溢れました。「大学の部」の宿舍としてご利用頂いた高安詰所も、若者達の息吹で大いに活気づきました。高安詰所は「フリーWiFi」の使える詰所として、学生さん達にも大変好評ですが、お年寄りから子供達まで、誰にでも快適な詰所を目指し、ご利用の皆様のご要望に少しでもお応えできるよう、漸次改善して参りますので、これからもどうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

クラブ合宿

高安詰所は、天理高校や天理大学に最も近い詰所として、高校、大学のクラブ合宿などに幅広くご利用頂き、練習試合などで全国から来られる学校の生徒さんにも便宜を図らせて頂いています。そしてその際には、縁あっておちばにお帰

り下さった学生さんにも、高安部内のスポーツ関係者やOBから、お道の話聞いて頂くなど、心の修養にもしつかりとサポートさせて頂いています。

詰所カフェ & ライブ演奏

好評を頂いておりました二十六日の「詰所カフェ」。コロナの感染予防のため、長らく



休止しておりましたが、婦人会、青年会他の協力態勢の下、三月二十六日からいよいよ復活の運びとなりました。また併せて、詰所一階ホールで毎月開催している**ライブ演奏**も、回を重ねる毎に充実し、常連の多才な出演者も増えて、お帰りの皆様に楽しいファミリーなひとときをお過ごし頂いています。

お参拝の帰りには気軽に詰所にお立ち寄り頂き、美味しい本格コーヒーと素敵な音楽で、身も心も癒して下さい。（*前号に二月再開とお知らせしましたが、三月再開となりましたことをお詫び致します・・・）

にをいがけ実動（三月十一日）

大教会の三年千日の目標は、別席者**千四百名**、修養科生**四百名**です。厳しいハードルではありますが、高安が持ち備える潜在力を引き出してくれる目標値であると信じ、「にをいがけおたすけ」に励みましょう。詰所でも勤務者一同、御用にお使い頂ける感謝の気持ちを含めて、今月も寒さにも負けず、勇んで詰所周辺を神名流しさせて頂きました。



修養科第九七八期 門出式（二月二十八日）

最後まで笑いが絶えなかった第九七八期修養科生の皆さんも、大教会では涙、涙の感激の門出式で修養科三ヶ月の幕を閉じました。人数が少なかった分、ひのきしんも多かったけれど、修練には集中でき、おつとめの習熟度はお見事でした。僅か三ヶ月でここまでできるものかと、感動す

ら覚えました。「こんな素晴らし
い修養科に、あの人にも、この人
にも声をかけてお誘いしたい。そ
してできれば自分ももう一度来
て、もつともつと学びたい」と、
修了生の皆さん方が口々に語っ
ておられたことが、三ヶ月の全て
を物語っています。教養掛をおつ
とめ下さった山崎栄慈先生、大北和代先生、そして助手の長畑佳
樹さん、三か月間、本当にご苦勞様でした。

修養科第九八一期 入科（四〜六月）

今期修養科生は男子三名、女子六名、計九名です。年祭活動始ま
りの年としては淋しい限りではありますが、向かう二年間で四百
名のご守護を頂けると強く信じ、心を込めて丹精させて頂いてい
ます。尚、今期教養掛は次の先生方がおつとめ下さっています。



教養掛（男子）

星山道一先生（都南・南鴻）

教養掛（女子）

古川はるみ先生（淡路三原・北澄川）

教養掛助手

東 康平さん（泉中・北松尾）

編集後記

春は異動の季節。様々な別れと出会いを繰り返し、人は成長
していく。おちばから巣立つ若者達も、一回りも二回りも大
きく逞しくなっていて、帰ってきてくれることを切に願う。



発行 天理教高安大教会信者詰所
発行者 芦田孝廣
印刷 〒632-0035

天理市守目堂町二五五番地一
TEL 0743-63-0421